

グループワークで出た意見 (2012/10/25)

1.伊予市立図書館建設検討報告書の 「第1章:市立図書館の現状と課題」について

<1 班の意見>

(意見)

- ・現状と課題に関して、障がい者から見た不便さも挙げると良いのではないかと思います。
- ・児童サービス、イベントの情報が一般の方々に伝わっていないので改善すべきだと思います。
- ・イベントについて実施回数が少ないと思います。
- ・自動貸出返却装置を導入して、貸出・返却が早くなって良かったと思います。
- ・ICタグシステムの活用で良くなったと思います。
- ・図書館利用者が平成22年から増加したのは、サービスシステムの改善の効果だと思います。
- ・行事が重なると駐車できないこともあり不便を感じることもある。
- ・市民の意向について図書以外にどのように利用しているのかの項目もあると良い。
- ・図書館、資料館についてどのように利用されているのかをもっと詳しく。
- ・現在は2階に図書室がありますが、ぜひ1階にしてほしいです。障がい者のためにも。
- ・図書館には学習研究室を別室として確保してほしいです。
- ・床面積が十分ではないために、書籍の閲覧が十分にできていないと思います。

<2 班の意見>

(現状認識資料として、P2 以外に提示が必要な情報)

- ・開架冊数
- ・視聴覚資料数
- ・資料購入費[うち図書購入費]
- ・図書館運営費
- ・職員数[うち司書数]

は、どのようになっていますか？

(P3-4-(2)に関して)

- ・イベント参加人数等の状況はどのようになっていますか？

- ・イベントの事業企画状況はどのようになっていますか？また誰が企画していますか？

- ・愛媛県子ども読書活動推進計画に基づく伊予市の計画は策定されていますか？

(P3-4-(2)に関して)

- ・ブックスタートの実施状況はどのようになっていますか？

- ・子ども読書サービスのための学校・公民館・児童館・幼稚園・保育所のネットワークはどのようになっていますか？

- ・どんなボランティアがあり、どんな研修・養成を実施されていますか？

(P4-(4)に関して)

- ・サービス件数はどのようになっていますか？

- ・どのような体制がとられていますか？

(P4-(8)に関して)

- ・自動車図書館サービス(ブックモバイル)の現状はどのようになっていますか？

(P7-(4)に関して)

- ・資料展示室は常設展示用ではないのですか？

- ・企画展は必ずしもこの場所ではなく、他の施設を活用することも考えられます。

- ・展示開催時以外は閉鎖されているのは、本来の目的からは外れていると思います。

(P9-7 に関して)

- ・新しく図書館を開設する前に伊予市全体の市民(伊予・中山・双海)の図書館サービスについての意向調査をするべき。「各地域でどのような図書館ニーズがあるのか、何が不便なのか」今後の少子高齢化社会に対応して、どのようなサービスが求められるのか。

(意見)

- ・ハード面の検討ばかり。ソフト面の検討をしっかりとしないといけないと思う。

- ・何のために図書館建設をするのかの目的をしっかりと考えること。

グループワークで出た意見 (2012/10/25)

<3 班の意見>

(P5-5(2)に関して)

- ・国道 378 号からのアクセスを良くしてもらえれば、賛成できます。

(P6-5-(3)に関して)

- ・増加する蔵書の保管と、それに伴う閲覧室の狭あい化は改善する必要があると思います。
- ・施設の位置、サービス内容に関しては賛成できません。
- ・敷地や維持管理費の問題もあるため、複合する方向で良いと思います。ただし、維持管理費からの視点の情報が少ないと思います。

(P8-6 に関して)

- ・文化資料館の必要性について、どの程度の量を常設展示するのか議論する必要があります。文化資料館入場者数をどの程度に設定し、常設展示とするのかの検討が必要だと思います。

2.伊予市立図書館建設検討報告書の 「第 2 章:新図書館の目指す方向」について

<1 班の意見>

(意見)

- ・具体的な方法も盛り込んでほしい。

(P12-2 に関して)

- ・「誰もが行きたくなる図書館を目指す」ではなく、「誰もが利用しやすい図書館を目指す」ようにしてほしい。

- ・「新刊本や新着本、雑誌や新聞を始めとする豊富な蔵書の確保や、伊予市に関する郷土資料や行政資料を揃えるなど、伊予市らしい図書館を目指します。」ということが、誰もが行きたくなる図書館に繋がるのかが疑問です。

- ・部屋だけでなく、施設全体での雰囲気的大事であると思います。

(P14-3 に関して)

- ・伊予市民以外の方も利用したくなる図書館は賛成できます。

<2 班の意見>

(P12 基本理念に関して)

- ・図書館内は、それにこしたことはないでしょう。でも本来の図書館の役割は何もないのでしょうか。20 年後 30 年後のまちの姿、少子高齢化の進行する伊予・中山・双海の持続可能な地域社会にとって、どのようなサービスが求められるか十分に検討してほしい。現状は利用していない市民が多く、合併によって場所も何をしているのかも知らない市民が多い。これを変えていくことが先決。

- ・趣味や教養などを目的とした昼間時間的な余裕のある人のための貸出図書館から、市民のニーズに対応した利用者層の拡大や新規サービスに取り組む必要がある。

(① 地域と住民に役に立つ図書館)に関して)

- ・図書館法に基づく基本的な役割に留まらず、市民が求める生活や起業、地域の課題解決を支援するために資料情報の提供や、専門的な対応もできる①を目指すべきです。蔵書構成も、その資料を整

グループワークで出た意見 (2012/10/25)

備し、健康・医療・保健福祉情報・子育て・教育情報・法務情報・ビジネス情報・文化芸術情報・行政議会情報などの分野を充実し、オンラインデータベースも充実する。

(② 地域に身近な「どこでも図書館」のネットワークづくりについて)

- ・市民の利用半径は、10 万冊規模の図書館では1200m、子ども・高齢者の利用半径は600m。
- ・身近な図書館機能の整備と地域のネットワークサービスが重要。学校図書館・児童館・保健福祉センター、中山・双海地区の図書館活動との連携の仕組みを改善すべきです。
- ・インターネットによる図書予約サービス、近くの公民館・地域事務所などで受け取り・返却できるポイントを増やし「どこでも図書館」のネットワークづくりを進める。

・外出困難な高齢者や障がい者に「自宅に居ながら予約し受け取れる」有料宅配サービスや録音図書貸し出しサービスも検討する。

(P12 基本理念に関して)

・図書館サイドからの施設のイメージ的な捉え方で、図書館が市民の暮らしや地域の中で役割を果たすためには、図書館が市民の中に入っていくこと、世代を超えて一人一人の市民を支援する「地域や住民に開かれた図書館」という視点が必要ではないか。そのうえで、キーワードとして「交流」が重要。(複合施設の機能を活かして)「気軽に立ち寄れる」「人と情報とが出入りする」「仲間と会える」「語らいと交流が楽しめる」まちのリビングのような「交流図書館」を目指すべきではないでしょうか。また、伊予・中山・双海の地域情報の交流・ネットワークの視点が、身近な図書館づくりには不可欠。図書資料の保管場所ではなく、図書館機能を市民や地域に役立てるという考え方を中心に捉え、人と人、人と情報、人と事業企画との結びつき(交流)を大事にした運営ビジョンを考えるべきではないでしょうか。人・情報の交流や知的創造が生み出される役割を持つべきで「わくわくする図書館」づくりを。そのためにはサービスに必要な「人・モノ・コト」が。

人＝専門的な職員体制・参画、共働する市民・ボラ

ンティア

モノ＝図書、情報資料、歴史文化資料

コト＝事業企画

(P12-2 について)

「学びの場」

- ・人が学び育つ場にしよう。
- ・「問題を解決する。」「何かをつくりだす。」ことを支援する機能。

・新しいものを学び継続した学習を高めていく機能。

「育む場」

- ・情報化社会の中で、子どもたちに情報リテラシー教育をすること。

・「未来の伊予市、日本を支える子ども」を育てる機能。

・全国の図書館・大学・国会図書館への利用を支援する。

「交流の場」

・「未知の知」(図書・情報)との出会い・交流できる機能。

・人との交流が生まれる機能。

・伊予市のまちづくりの人や地域情報が交流できる機能。

「情報発信の場」

・伊予市の歴史資源・文化財など調査研究し発信する機能。

・伊予市の地域・行政・議会情報がすべてわかる機能。

(P14-3 について)

・サービス目標が図書数のみになっているのはどうだろう? 「図書資料の収集、貸出指標」とすべきでは?

・図書についても視聴覚資料・児童図書なども指標化すべきでしょう。

・他にレファレンス件数、読み聞かせ会、小中学生、高校生、大学生、高齢者、障がい者などの利用者数・貸出し数なども指標化しましょう。

・すべて平均をめざすというのは消極的すぎませんか?

(P13-(6)、P20(オ)に関して)

・地域の文化財・歴史資料は今後も増加して行くこと

グループワークで出た意見 (2012/10/25)

が予想され、これらの保管・収蔵については1ヶ所への集中には限界があり、遊休公共施設等の活用、「地域の資料はできるだけ地域に身近なところで保管する」ことを基本にすべきではないでしょうか。また、展示機能は、特別展・企画展は、新庁舎やウェルピア、地域事務所などを積極的に利用し、市民に身近な場所での開催をしましょう。

(P18 について)

・1,500 m²は複合施設全体の中で検討すること。

(P22-5 に関して)

・一般書を中心とした蔵書を補完するとしているが、専門家の協力を得て意見を聞いた市民調査をし、(伊予市民各世代のニーズ・ジャンル・テーマを)特色ある蔵書計画や活用計画を策定すべきでしょう。

(意見)

・ソフト面のシステムづくり。読書計画やプランなどを策定する必要がある。完成にあわせて。

<3 班の意見>

(2.基本方針について)

- ・(2)集中して学習等できる「学習室」を設けていくことには賛成である。
- ・基本方針の7項目すべてに賛成ですが、面積や予算を考えると7項目の中での優先順位をつけることが必要と思います。
- ・基本方針には賛成ですが、利用者の増加や利用者の利便性向上を高めることを大切にしてほしい。
- ・4-(3)諸室について、基本理念の「市民がつどい学びくつろげる図書館を目指して」を実現するには諸室をしっかりと設けて、集える空間を持つ必要あり。必ずしも蔵書数が大切では無いと思います。

(P16-(3)について)

・登録率や貸出し冊数、蔵書数、蔵書回転率など、伊予市は愛媛県の平均より下回っているので、まずは平均を目標とすべき。

(意見)

・「伊予市らしい」図書館とは、どういうことが伊予市らしいのか？抽象的すぎる。

(3-(1)(2)に関して)

・蔵書数を一人当たり増加することは大事ですが、ど

の種の本を蔵書化するのか、購入して行くか、方向性が必要ではないか。具体的に示す必要あり。

グループワークで出た意見 (2012/10/25)

3.「はじめにで始まる複合化の資料」について

<1 班の意見>

(意見)

- ・複合化にはいろいろなメリットがあり、良いとは思いますが、現在予定している敷地に全てを複合化するには無理があると思う。
- ・駐車場を広く確保して、「図書館と公民館」だけを複合化してください。
- ・JRや伊予鉄道の電車交通の利便性が高く、利用者がたくさん訪れることが予想されるとあるが、車社会の中では、疑問に思う。
- ・全てを複合化させることは無理があると思う。スペースが足りず、2 つくらい機能の複合化が現実的ではないのか。
- ・複合化には賛成。少子化高齢化の中では、双方が集える場所が必要。
- ・複合化には賛成ですが、市民会館は別にする必要があるのではないかと。
- ・老人福祉施設は、松前町のように社協と一体型にすべきだと思う。(機能訓練・娯楽室・浴室など)
- ・施設全体の面積が狭いとイメージすると思う。狭いイメージだと出かける意欲がわかない。
- ・中心市街地を活性化するためには、町なかに人が流れるようにしなければならないと思う。
- ・老人福祉施設の中にデイサービスが入っているが、別の場所にしてほしい。
- ・施設も大事ですが、人材育成にも力を入れる必要がある。
- ・本当にこの場所に建てるのですか？

<2 班の意見>

(基本理念について)

- ・新しい文化・交流施設をつくることは「手段」であり「目的」ではありません。多様な文化活動や総合学習が活発に展開されることが目的です。
- ・ハード面とソフト面での課題が多い中、複合施設の「像」が見えてこない。
- ・生涯学習の拠点？ソフト面の課題がある。

- ・敷地の持つ問題点。複合機能をどこに絞るのか。
- ・道路事情なども考慮する必要がある。

<3 班の意見>

(基本理念について)

- ・賛成です。4 万人弱の市民に合併後の広い市に公平な施設を検討して行くには合理性(アクセス・集客・コスト)を考えると不適で、景気減速の現状では将来を踏まえ、複合化して、1 つの場所を多機能で使う方が望ましい。
- ・複合化の方が管理運営面でもメリットが多いが、図書館・文化ホールは1階に配置すべきである。
- ・図書館・文化ホール・中央公民館の3機能については複合化しても良いと思う。
- ・複合化は図書館と文化ホールのみにしてほしい。土地の広さから、複合化しすぎると、すべてが中途半端となりそう。
- ・市長方針がブレたことにより、複合化するならウェルピア(南伊予地区)への配慮を検討すべき。複合化するのであれば別の場所を望む。
- ・敷地が狭いため、図書館・文化ホール・中央公民館の3つを複合化することは無理ではないか？駐車場も少なくなる。

グループワークで出た意見 (2012/10/25)

1.伊予市立図書館建設検討報告書の 「第1章:市立図書館の現状と課題」について

<傍聴に来られている方々の意見>

(意見)

- ・郷土学習のコーナーを設け、年に一度は、小学生が必ず使用するようにすべき。
- ・利用者の立場からの意見として、高齢者が増加することを考慮した設計を心がけてほしい。
- ・アクセスの問題があります。文化ホールと図書館とを併設した場合、まち中への開き方が、敷地の間口に限界があり、どっちつかずになる(郵便局が移転したとしても)。
- ・エレベーターが無いので行きづらい人がある。
- ・図書館カードの一元化により、児童・学生の利用率が学校と図書館双方で高まり、確認もできる。
- ・子どもの利用を考えるべき。明るく楽しい雰囲気づくりが大切だが、静かに閲覧、読書、学習できるスペースと別にすべき。
- ・交通弱者に対し、宅配サービスも検討してはどうか。
- ・文化施設としての複合の利点を活かすように、活字データ、WEBデータの学習、研究に留まらないで、文献データとワークショップのコラボレーションも必要(例:食文化は実際に味わってみたいと分からない)。
- ・市民のなかで伊予市の図書館はどこにあるの?行ったことがないと言う人あり。
- ・まず、市民が気軽に足を運べるものでありたい。
- ・図書館だけを特化して考えることは難しい。
- ・文化ホールと図書館との複合施設として、市民が集いやすい利用しやすい文化施設として考えるべきでは?
- ・伊予市以外、松前や砥部の図書館を利用している人が多い。
- ・ロビー横の部屋を出していない本を出す場に。
- ・蔵書の充実はもちろん、他の図書館にない特徴のある魅力も必要。(・プラネタリウム?・喫茶?・画廊?)
- ・図書館の登録・貸出しについて、登録率が極端に

低いのは、市民の中に図書館が無いことの表れです。どこに原因があるのか、きちんと分析する必要がある。「魅力がない」「必要としていない」「広報が足りない」など。

- ・蔵書冊数総数だけでなく、児童書や視聴覚資料の内訳は?職員数についても検討すべき。予算(図書館費・図書費)も検討すべき。サービス内容が大事。
- ・サービス内容について、児童サービスのイベントの参加者数・評価はどうですか?伊予市には「子ども読書活動推進計画」がなく、ブックスタートや児童書の貸出冊数の数値目標がない。
- ・文化財資料(歴史資料)館との兼ね合いが重要。県下でも屈指の文化財の宝庫である伊予市の発信の基地としたい。
- ・外観が図書館であるとわかりやすいこと。
- ・場所の明示。はっきりとさせること。
- ・暮らしに役立つレファレンスサービスが大事です。件数や内容、対応はどうしているのかわからない。体制はどうなっていますか?
- ・祝日休館はどうなのか?閉館時間が18時では早すぎる。夜間も利用できるように。資料室は企画展示以外は閉館されているのはおかしい。職員、運営体制に問題あり。
- ・施設や設備に関して、高齢者にとって使いにくい。現在の図書館を設計した時にどのようなコンセプトがあったのか?3階の読書研究室、三代交流室、視聴覚室は市民は知らない。使われていない。
- ・年を取った人(老人)行く施設。
- ・公立図書館と学校、児童館、幼稚園、保育所のネットワーク。中山、双海等とのネットワークがどうなっているのか。自動車図書サービスの現状と問題点について評価が無いのでは?
- ・人的体制(職員)と市民ボランティア等の自発的な活動が不可欠です。現在は囑託館長と臨時職員だけです。司書は臨時職員まかせでいいですか?
- ・利用登録者数は、近隣の市町村で最下位である。利用できる権利の様々な世代・職種に広範囲に行きわたるよう、ぜひ、工夫が欲しい。文化財の扱いについて、図書館には収集研究部門を併設し、展

グループワークで出た意見 (2012/10/25)

- 示部門は各発掘・収集現場に近い所が望ましい。
- ・蔵書が少ない。小学生中学生にも意見を聞くべき。子ども特に2～5才児に図書館に興味を持ってもらう。絵本等の充実及びイベントの充実。
 - ・レファレンスサービスは当然必要ですが、児童・主婦・学生・社会人・老人と、それぞれ必要とする図書を、児童だと放課後クラブとか、主婦だと集会所、老人だと福祉施設というふうに、適地でも貸出しできるようにしては、中山・双海エリアも同じように扱う。
 - ・市民全体の図書館サービスについての意向調査をやるべきです。高齢者の世代が多い双海・中山などの地域ニーズもしっかりとつかんでください。

2.伊予市立図書館建設検討報告書の「第2章:新図書館の目指す方向」について

<傍聴に来られている方々の意見>

(意見)

- ・文化資料館は広く、職員も多く。
- ・トイレは男女の場所は別にしてほしい。男だつて気を遣う。市役所のようにならないように。エレベーターは広くするように。
- ・本は全て入替制で何回も回して読めるように。
- ・飲食はダメ。メリハリがつかない。
- ・伊予市らしい図書館を目指します。とあるが重要。そのためには、郷土資料集と展示の重要性。
- ・若者達がデートの待ち合わせに利用するような空間の創出。
- ・サービス目標について、単に指標数値を上げることだけではダメ。例えば市民一人あたりの蔵書冊数がダントツの久万高原町(人口が少ない)が、登録者ひとりあたり貸出し冊数や回転率では平均を大きく下回っている。数字だけの評価だけではなく、登録率や回転率の高い砥部町の図書館の現状などを参考にすべきだと思う。
- ・基本理念について、あれもこれもと欲張りすぎに思える。(2)靴を脱いでゆったりくつろげるスペースを多く確保するということは、(7)土足禁止をやめるということと反する。
- ・図書館と文化ホールは別にすべき。図書館は今の場所に、文化ホールはウェルピアへ。
- ・基本理念について、公共としての図書館の役割は、市民を迎える施設ではなく、市民に情報発信していく姿勢が必要。人と人、人と情報、人と事業企画との関係を取り持つ場としての位置づけが必要。伊予市の次世代の子どもを育てる場、市民参加の仕組みも必要。
- ・伊予市特設のコーナー、郷土の歴史コーナー。我が町に愛着の持てるスペシャルスペースを。
- ・図書館が世代交流の場となる企画運営を目指す。
- ・定期的に図書館利用者に改善点を尋ね、常に進化する図書館を目指す。
- ・受け身ではなく発信型の図書館を目指すには、図

グループワークで出た意見 (2012/10/25)

- 書館長の行動力、アイデアの豊かさ、市民に対する貢献意識が大切であることから、ぜひとも、有能な人材を全国募集とか幅広く求めていく必要がある。
- ・シルバーの皆様のいこいの場。
 - ・基本理念について、図書館サイドの施設イメージとなっています。市民からみると、「世代を超えて一人一人の市民を支援する、地域や市民に開かれた図書館」の視点が大事。
 - ・キーワードとして「交流」。気軽に立ち寄れる、人と情報が入り出せる、語らいと交流を楽しめる、リビングのような図書館。
 - ・人と人、人と情報、人と事業企画との結びつき、(交流)を大切にする体制・運営の充実。「人と情報の交流や知的創造が生み出される」図書館。
 - ・地域と住民に役立つ図書館。課題解決支援、レファレンスサービスを充実する。地域に身近な「どこでも図書館」のネットワークをつくる。インターネット予約、受け取り、返却ポイントを各地域につくる。
 - ・伊予市を情報発信する図書館。歴史文化など、伊予市の地域・行政など、すべてがわかる機能。
 - ・情報化社会の中で、子どもたちの情報リテラシー、「伊予市、日本を支える子ども」を育てるために全国の図書館、大学、国会図書館とのネットワークが可能な図書館。
 - ・図書館サービス目標について、図書については一括ではなく、視聴覚・児童図書も、レファレンスなどのサービス内容も指標化すべき。登録率向上を優先。平均値はダメ。
 - ・文化財の収蔵・保管・展示について、収蔵保管に関しては、地域に身近なところで分散して行う。1ヶ所に集中させることは限界がある。展示は新庁舎や各地域事務所などを活用する。
 - ・図書館と併設した資料室機能は、調査研究、学習支援、人的体制の確保を中心に考える。
 - ・蔵書計画について、伊予市民の各世代のニーズ、ジャンル、テーマを、専門家を入れて調査して特色ある蔵書構成にすべき。(80,000→120,000冊)
 - ・総花的な購入はあきらめる。予算には限りがある。伊予市に行けば、〇〇分野の本はいろいろなもの

があるというように特化すべきである。他の分野の特異な本は他の図書館から借りてくれば良い。いろいろな分野の数値は気にすることは無い。

- ・開館時間や休館日の検討。仕事帰りに寄ることのできる時間帯も。たいていの文化施設(図書館)は月曜が休館。そういう日に開館すると利用したい人も多いと思う。
- ・どこへ行ってもあるような蔵書ばかりでなくてよい。伊予市の図書館に行けば、〇〇の本(資料)は全て揃っている・・・というような特徴ある蔵書。
- ・県立図書館を伊予市へ誘致する。
- ・民間との連携によるサービスあふれた図書館もある。

グループワークで出た意見 (2012/10/25)

3.「はじめにで始まる複合化の資料」について

<傍聴に来られている方々の意見>

(意見)

- ・図書館、郷土資料館、公民館、文化ホール、福祉施設をすべて統合する計画は共感できるが、それにより駐車場も新設すると予想されるが、費用が膨大になるのであれば、場所の選定から議論すべきだと思う。
- ・市民会館と公民館は一緒にして、図書館はウェルピアへ。
- ・文化ホールはウェルピアへ。残りを現敷地へ。
- ・複合化には賛成。コンパクトシティを目指せ。
- ・中心市街地に公有地を活用する前提なので複合化はやむを得ない。「図書館・文化ホール」を中心に公民館機能を精査して、相互連携をとる。老人福祉センターは総合保健福祉センターへの移行を考える。
- ・まち中に「老人憩いの間」的な機能は別に考えてはどうか。総合保健福祉センターは、高齢者に対して何をするのかを明確にすべき。
- ・新庁舎-総合保健福祉センター-新しい文化交流施設相互のネットワークの中で、複合させるもの分散してまち中につくるものと考えて中心市街地が元気になるまちづくりを考えたい。
- ・基本理念について、「生涯学習の拠点」というのは狭すぎます。文化芸術、創造活動は、まちづくりコミュニティにとっても意義があります。「交流・創造・育む」「ひらかれた文化の広場」を。
- ・伊予市が巨費を投じて整備する意味・目的は？本来は社会的マイノリティ、孤立者をいかに救い上げができるか。ではないか。毎日の生活の延長線上に様々な人が集い、交流し、未来の伊予市を創造して行く場である必要がある。毎日でも市民が気軽に立ち寄れる娯楽場であり、けいこ場であり、社交場である。文化ホールと日常利用するけいこ場は分離する案もあるのでは。けいこ場は市街地の空地あるいは空家に。そうすることで、まちに回遊性が生まれるのではないのでしょうか。

- ・建設予定地に全ての機能を集約することは、館内の中だけで活動が完結してしまう恐れがある。灘町、湊町、旧市街地との関係をどう計るかが、ウェルピアではなく、市中心にもってきた理由のはず。
- ・公民館機能、会議室等を文化ホールのサブ機能(楽屋・スタジオ・けいこ場・練習場)にも転用することも考えられるか。
- ・施設は単体でやる。
- ・イクメン、イクジイなど子育てに関わる男性が増えている現在、複合化は新しいニーズに答えると思う。
- ・小規模で利用しやすいスペースを市民が欲していると思う。アクセスが良く歩いて行ける場所。
- ・管理のあり方、サービスについて、施設は手段であり、目的ではありません。事業計画を推進する取組体制、管理運営等を施設計画と結びつけて策定すること。ソフトとの関連で考えましょう。
- ・複合化は基本的には賛成。しかし、老人福祉施設は別な所へ考えたほうが良い。とにかく、郵便局の移転がどうなるか？前回にも提案したが郵便局(金融・保険)部門を共に複合化したらどうか。
- ・「図書館+ホール」が望ましい。公民館、老人福祉施設は、別にする。まち中の空地の活用は。
- ・複合化には反対です。どの施設とも小規模になり、ただ寄せ集めたものになってしまう。まちの活性化を考えた場合、公民館や老人福祉施設をまち中に分散させるのが良い。